

二〇一四年八月四日掲載 物流二ツポン

第一貨物運輸技能競技大会

山形チームが団体優勝

事故防止で安定経営



第一貨物(武藤幸規社長、山形市)は7月27、28の両日、山形県天童市の中央研修所で運輸技能競技大会を開いた。全国6支社の10名出場者を代表して、阿部選手が選手宣誓

140人と、関係会社8社から8人がオブザーバー参加した。プロドライバーとしての社会的責任を深く自覚し、法令順守と安全意識の高揚を図るとともに事故の絶無を期すのが目的。今年で55

回目となる。28日に開会式を開催。武藤社長が「我々の事業は公道を利用しており、事故防止が大前提となる。運輸安全マネジメントとともに、中期経営計画(2012〜14年)では、3年で事故を半

減させる目標を掲げた。全員の力で達成させたい。社会的信用を得るため、安全の確保を事業の柱に据えている。信用を失えば、企業の存続も危うい。経営の安定を図るためにも、事故防止の徹底が不可欠であり、それが大会の趣旨。日頃培った技能を遺憾なく発揮して欲しい」と挨拶。山形運輸支局の千葉美記支局長らの祝辞に続き、出場者を代表して、阿部孝徳選手(39、山形A)が選手宣誓を行った。

競技はトラックとフォークリフトの2部門。トラックは大型、4トン、2トンに分かれ、学科と運転実技、日常点検で競い合った。フォークリフトは各チームから1人ずつ出場し、28日に運転実技のみで競った。団体は山形Aチームが優勝。準優勝は山形Bチーム、3位には東京Aチームが入った。

個人の内では、大型の部が本多文武選手(50、名古屋)、4トンは沢井圭介選手(38、東京A)、2トンでは平良木亮選手(34、山形B)がそれぞれ1位に輝いた。フォークリフトは伊藤岳選手(45、東京A)が勝ち取った。また、関係会社では、大型で田尻裕輝(38、長野第一物流)、遠山健次(44、名古屋第一物流)の両選手、4トンは大坂哲矢(27、新潟第一梱包運輸)、西条三雄(57、宮城第一物流)の両選手に奨励賞が贈られた。(黒田秀男)